

## 巻末エッセイ

### 会長の「楽しいかな」根の研究（6）

「根の研究」には幅広い分野の論文が掲載されます。私自身、毎号わくわくしながら読んでいます。これらの論文は、一定期間の後にインターネットで公開され、会員以外の方でも読むことができますが、郵便で届く「根の研究」の袋を開ける時のあのなんとも言えない楽しみな気持ちをより多くの方に感じていただければと思います。

さて、コムギの幼植物の種子根の伸長角度が品種によって異なることを再確認した私は、これらの品種を畑で栽培して、実際に根の分布を調べてみることにしました。畑でコムギを大きく育て、根系が完成した頃をみはからって、深さ 5 cm ごとに 30 cm までの土を採取し、各層の根の量を調べました。

得られた根の量には誤差が大きいため、深さ別の根の量をグラフ化してみてもどの品種がより深い根系を作っているのか分かりませんでした。そこで、もし全ての根が最も浅い層（深さ 0-5 cm の層）にあれば 0 となり、全ての根が最も深い層（深さ 25-30 cm の層）にあれば 1 となるような計算をしてみました。そして、この結果をある学会誌に投稿したところ、レフリーから「各層の根量に深さの中央値（2.5 cm, 7.5 cm, 12.5 cm, 17.5 cm, 22.5 cm 及び 27.5 cm）をかけて根系の重心を求めてはどうか」という助言をいただきました。ありがたいことに、そうすることで各品種の根系の深さが数値で実感できるようになりました。根研究会で特別賞をいただいた「根の深さ指数」の誕生です。このように、この計算方法は論文の査読の過程でレフリー氏が考えた方法なのです。レフリーは誰か分かりませんから、お礼を申し上げることもできませんが、この方法で計算した根系の深さが種子根伸長角度と密接な関係にあることを示した論文は、この方にも喜んで読んでいただいたのではないかと思います。

最近、一流といわれる学会誌に論文を投稿すると門前払いのような扱いを受けることがあります。これは、有名な学会には常に多くの投稿があるためでないかと思います。それに対して、根研究会は投稿論文をレフリーがしっかり読み、著者と読者の両方の立場に立って丁寧に審査し、論文を良くするような助言も行ないます。それは、根の研究の難しさをよく知っている研究者がレフリーになるためです。論文の審査の過程で、このような研究者間の切磋琢磨が生きていることこそが、小さくてもキラリと光る学会「根研究会」の真骨頂といえるでしょう。（つづく）